

## 第1回交流研究会 会議録

日時：平成18年10月7日(土) 13時30分～16時10分

会場：愛知大学三遠南信地域連携センター 1階・第1会議室

出席者：三遠南信地域連携センター

奥浜名湖観光連絡協議会

STいとう

とよがわ流域大学の会

三遠南信アミ



---

### 1、交流研究会の目的等について

別紙資料参照

『住んでよし、訪れてよし』の地域づくりに向けて、「地域を盛り上げる道の活用」、「個」(人・もの・こと)が輝く地域連携、「三遠南信発見・交流フォーラムの継続」について意見交換を行う。また、それらの目的を実現してゆくための三地域の連携・実践プランについて考え、三地域住民によるプラットフォームづくりへつなげてゆく。

### 2、愛知大学三遠南信地域連携センターの事業内容について(センターからの説明)

センター紹介パンフレット参照

センター設立について

- 「地域文化・社会への貢献」を旨とする愛知大学において、2004年、10月に設立。
- ・2年前、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業(社会連携分野)の採択を受けた。(全国で採択された私立大学9件の中の1件にあたる)
  - ・5年間(3年目に事業の中間報告を行う)の事業だが、3年ほど延長になる可能性もある。

センターの事業について

地域づくり情報システム整備事業(地域の利用が可能な地域づくりデータベースの構築)、学術的共同研究事業(三遠南信地域を具体例とする体系的地域学の構築)、官学連携事業(地方自治体等と協同する事業展開)、教育・人材育成事業(地域に貢献する教育・人材育成事業の推進)について、学外との協働作業による展開を図り、グローバルな視点に立った「地域づくり」トータルシステムを開発して地域貢献を目指す。

- ・官学連携、民学連携を進めてゆく。
- ・地域づくりデータベース構築・・・地域づくりに必要な情報を整理し、広範な人々の利用により地域づくり等に役立たせてもらいたい。
- ・地域づくりガイドライン研究会・・・三遠南信の地域づくりに資するための、住民と共に創る地域学(地育学)を構想することを目的に協議している。

地域学実践の際に、現在研究開発中の「地域づくり評価システム」による事業評価ができると良いと思う。

## 地域づくり評価システム

『地域経営・地域づくりの評価システム』で、地域づくりの主体である地域市民の視点に立ち、地域・官・学・産との共同研究により新たな地域経営・地域づくりのための点検・評価システムの創設を目的とする。

評価に係る情報・データ・資料等のストックと併行して先行事例調査を実施。

地域づくり点検システム構築のためのフィールド調査として、愛知県東栄町、長野県下條村、静岡県浜松市（旧天竜市）で地区力点検を実施。

データベース構築事業、学術的共同事業、官学連携事業との学内合同研究会を開催など

- ・地域づくりサポーター・・・公共からの依頼で調査や地域づくり支援活動や、学生自から地域づくり事業を提案して実践活動を行っている。
- ・とよがわ流域大学・・・愛知県からの委託事業。平成 17 年 10 月～12 月まで「豊川流域圏県民カレッジ～とよがわ流域大学」開校。地域発展（流域圏づくり）を進めるリーダー的人材の養成を目指す。
- ・豊橋技術科学大学連携融合事業・・・豊橋技科大と地域協働まちづくりリサーチセンター主催。産官学民の協働で取り組む地域づくりモデルとなる「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン事業」に共催している。  
豊橋技科大の工学系・環境系の技術システムの観点と、愛知大学の人文社会学的な観点とを融合し、新都市「三河コンベクションアカデミー」をプラットフォームとして、地域づくり戦略プラン策定手法（人材育成、意識啓発アクションプログラム等）を構築する。
- ・センター会議・・・センター運営には、学外の行政、産業界、NPO等の有識者が参画しており、学外との連携による協働事業を展開している。

## 今後の地域住民活動との連携について

地域住民や NPO とのネットワークを形成して、連携活動を強化してゆきたい。

この度の「三遠南信地域住民によるプラットフォームづくり」を全面的にサポートしてゆきたい。

## 3、「三遠南信発見・交流フォーラム in 三河」実施報告（アミからの報告）

### とりまとめ資料参照

意見交換会（分科会）で出された地域資源情報や、「みち」の活用プランをどのように活かしてゆくかを交流研究会で協議してゆきたい。

### 《分科会で出された活用プランの主な内容》

テーマ性の高い回遊ルートづくり

地域資源を活用した各種イベントの開催

周遊ツアーの実施

その他（抜粋）・・・“ミニ”道の駅のネットワークの形成（沿道の商店や施設をミニ道の駅として地域 PR・情報発信してゆく。

街道マップづくり。サイン施設や公共交通の充実など。

地域資源情報の取りまとめ方法について

パワーポイントで説明

- ・「マッブルジオボード」を使って整理中。インターネット上でのプラットフォームといえる。
- ・本システムは、無料で活用できる。
- ・現在は、地図上に場所と名称を落とし込んだだけ。今後、写真や説明文が入ると充実できる。

今後について

情報収集の方法を決めて、地域住民に情報提供を呼びかける。

どのように情報を投稿してもらうかが課題

#### 4、地域連携センターの「地域づくり情報システム整備事業～GIS（地理情報システム）データベースの整備～」との連携の可能性は？

- ・本事業は、平成17年度からスタート。外部メンバーと内部のメンバーとで、地域づくりデータベース・Web-GISシステム開発の基礎的な仕組みづくりや調査データの整理などを行っている。
- ・いかに地域に蓄積されてきた情報（歴史的資産、景観、環境、道路等）を収集するかが大きな課題。地区住民、地域活動団体との連携が必要。

#### 5、連携・実践プラン（案）について

別紙プリントの読み上げ。次回以降、協議してゆく。

#### 6、今後の三遠南信交流・連携事業などについて意見交換

- ・第2回目の「三遠南信発見・交流フォーラム」で行った意見交換会（分科会）を再度実施して、探りきれていない情報を出し合うと良い。
  - \* 地域資源調査の事例として「街道を愛する会」で、R-151の地域資源を探り、スライドでつなげたことがある。楽しくて、分かりやすかった。
- ・エリアを定めて地域資源を探り、来訪者が回遊できるルートづくりを行ってはどうか。
- ・東栄町では各地域で町民会議がはじまっており、地域おこしや地域産業の活性化等できることから取り組んでゆこうとしている。今後の三遠南信交流・連携に期待。
- ・「とよがわ流域大学の会」では、流域の活性化を目指している。今後の三遠南信地域における流域連携に期待。
- ・本研究会の目的や今後の活動等を説明・アピールする場合、「交流・連携」といった漠然とした言葉でなく、具体的な内容を伝えるキャッチフレーズを考えたらどうか。そのほうが分かりやすく、より多くの人に関心を持ってもらえると思う。